

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月13日
【四半期会計期間】	第32期第2四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	テックファームホールディングス株式会社
【英訳名】	Techfirm Holdings Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長CEO 永守 秀章
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03 - 5365 - 7888（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 松本 圭太
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03 - 5365 - 7888（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理部長 松本 圭太
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第31期 第2四半期 連結累計期間	第32期 第2四半期 連結累計期間	第31期
会計期間	自 2021年7月1日 至 2021年12月31日	自 2022年7月1日 至 2022年12月31日	自 2021年7月1日 至 2022年6月30日
売上高 (千円)	2,619,379	3,419,709	5,519,060
経常利益又は経常損失 () (千円)	66,789	196,422	206,566
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失 () (千円)	26,888	121,622	168,804
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	28,330	114,684	153,597
純資産額 (千円)	2,420,103	2,322,593	2,240,771
総資産額 (千円)	3,603,649	3,704,919	3,692,121
1株当たり四半期純利益又は1株当たり当期純損失 () (円)	3.81	17.16	23.86
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	3.81	-	-
自己資本比率 (%)	67.2	62.7	60.7
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	91,110	154,057	75,340
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	8,935	495,747	3,597
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	32,631	36,621	34,985
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,783,758	1,597,897	1,981,852

回次	第31期 第2四半期 連結会計期間	第32期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	0.73	3.39

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 第31期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。第32期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染状況に応じた社会状況から、経済活動の正常化が一段と進み、緩やかな改善傾向で推移しましたが、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化、主要国中央銀行の金融引き締めによる金利上昇、エネルギー資源価格の高騰など先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが属する情報サービス業界におきましては、ウィズコロナ社会で加速するデジタル技術を活用した課題解決や新たな事業創出などデジタルトランスフォーメーション（DX）関連の需要は強く、競争力の強化や業務効率化を含めたIT投資は中長期的に底堅く推移していくものと見込まれます。

当社グループはICTソリューション事業を柱とし、先端技術を基盤とした高付加価値ソリューションや業界特化型プラットフォームのサービスの提案設計から開発、運用保守まで、ワンストップの支援体制を整え、顧客企業におけるDX推進の共創パートナーとして事業成長に取り組んでおります。また、創業以来、独立系のソフトウェア会社として様々な業種で蓄積したICTの知見とノウハウを活用し、農水産物輸出ソリューション事業を始めとした、デジタル化が遅れている産業にイノベーションを起こすことでITを通じた社会貢献に努め、グループの事業基盤、収益力の強化を目指しております。

当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は3,419,709千円（前年同四半期比30.6%増）、営業利益は185,171千円（前年同四半期比285.7%増）、経常利益は196,422千円（前年同四半期比194.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は121,622千円（前年同四半期比352.3%増）となりました。

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

（ICTソリューション事業）

ICTソリューション事業においては、売上高は製造業向けの開発案件が伸長し、流通サービス向け開発案件の終了に伴う減少など増減はありますが、既存顧客からの引合いが多く、概ね計画どおりに推移しております。大型案件へ対応するための投資については、引き続き進捗管理、外部パートナーの増強等、開発規模に合わせたオペレーションの最適化を進めており、安定した利益を確保できる体制構築に取り組んでおります。そのため、新規案件については抑制しておりますが、メタバース領域の広がりを見据え、5GやXRに対応する次世代ソリューションを活用した先端技術案件獲得を強化する方針を掲げており、事業環境の変化に合わせた開発体制構築と需要の拡大にも対応してまいります。

上記により、当第2四半期連結累計期間のICTソリューション事業の売上高は3,214,300千円（前年同四半期比32.5%増）、セグメント利益は512,345千円（前年同四半期比41.8%増）となりました。

（農水産物輸出ソリューション事業）

農水産物輸出ソリューション事業においては、主要輸出先であるシンガポールを含む東南アジアエリアの新型コロナウイルス感染症対策の簡素化も進み、現地需要も回復傾向にあります。燃料高騰による運賃、梱包資材の価格上昇は、採算性を重視する取り組みの中で、利益への影響を最小限に抑えることができております。

注力する海外販路開拓支援サービス「コネクトアジア」は、地方自治体・経済団体や金融機関との連携を進めたことで、中小生産者から大手食品メーカーまで幅広く関心をいただいております。また、食品輸出で培った販路開拓のノウハウを日本産の高付加価値美容品に広げ、「コネクトアジアビューティ」として、輸出に関するブランディングやプロモーションなどのマーケティング活動から現地での販売、物流までを一貫して支援する取り組みをスタートしました。コロナ禍でインバウンド需要の回復が遅れるなか「コネクトアジア」の取り扱い品目を美容品に広げることで更なる日本産品の輸出拡大への貢献と収益機会の創出を狙います。

上記により、当第2四半期連結累計期間の農水産物輸出ソリューション事業の売上高は205,408千円（前年同四半期比5.9%増）、セグメント損失は17,171千円（前年同四半期はセグメント損失29,690千円）となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ11,304千円増加し、3,275,391千円となりました。この主な要因は、現金及び預金が383,954千円、その他流動資産が101,812千円減少したものの、有価証券が500,000千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2,047千円増加し、427,958千円となりました。この主な要因は、投資その他の資産が7,239千円増加したことによるものであります。

繰延資産は、前連結会計年度末に比べ553千円減少し、1,569千円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ12,797千円増加し、3,704,919千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ71,036千円減少し、851,590千円となりました。この主な要因は、未払法人税等が84,198千円増加したものの、受注損失引当金が156,782千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ2,012千円増加し、530,735千円となりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ69,024千円減少し、1,382,325千円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ81,822千円増加し、2,322,593千円となりました。この主な要因は、配当金の支払があったものの、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が86,191千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ383,954千円減少し、1,597,897千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、154,057千円（前年同四半期は91,110千円の支出）となりました。

この主な内訳は、税金等調整前四半期純利益196,422千円、法人税等の還付額114,457千円による資金の増加、受注損失引当金の減少額156,782千円による資金の減少であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、495,747千円（前年同四半期は8,935千円の支出）となりました。

この主な内訳は、有価証券の取得による支出500,000千円による資金の減少であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、36,621千円（前年同四半期は32,631千円の支出）となりました。

この主な内訳は、配当金の支払額35,189千円による資金の減少であります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、8,877千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,000,000
計	17,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	7,515,000	7,515,000	東京証券取引所 グロース市場	単元株式数 100株
計	7,515,000	7,515,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	7,515,000	-	1,000,000	-	500,000

(5) 【大株主の状況】

2022年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社TOKAIコミュニケーションズ	静岡県静岡市葵区常磐町二丁目6番8号	638,000	9.00
筒井 雄一郎	東京都目黒区	468,500	6.61
小林 正興	千葉県市川市	278,000	3.92
株式会社読売新聞東京本社	東京都千代田区大手町一丁目7番1号	264,000	3.73
楽天証券株式会社	東京都港区南青山二丁目6番21号	247,200	3.49
山村 慶子	東京都港区	215,000	3.03
株式会社ミライト・ワン	東京都江東区豊洲五丁目6番36号	200,000	2.82
中村 臣敏	福岡県福岡市南区	196,400	2.77
志村 貴子	東京都目黒区	175,000	2.47
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	167,014	2.36
計	-	2,849,114	40.21

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 428,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,082,400	70,824	-
単元未満株式	普通株式 3,700	-	-
発行済株式総数	7,515,000	-	-
総株主の議決権	-	70,824	-

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) テックファーム ホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿 三丁目20番2号	428,900	-	428,900	5.71
計	-	428,900	-	428,900	5.71

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年7月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、海南監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,981,852	1,597,897
受取手形、売掛金及び契約資産	1,093,749	1,081,045
有価証券	-	500,000
その他	294,066	192,254
貸倒引当金	105,581	95,805
流動資産合計	3,264,087	3,275,391
固定資産		
有形固定資産	24,598	20,878
無形固定資産	8,668	7,196
投資その他の資産		
その他	393,325	400,565
貸倒引当金	682	682
投資その他の資産合計	392,643	399,883
固定資産合計	425,910	427,958
繰延資産	2,123	1,569
資産合計	3,692,121	3,704,919
負債の部		
流動負債		
買掛金	272,852	283,236
未払法人税等	289	84,488
賞与引当金	92,994	101,207
製品保証引当金	44,400	51,000
受注損失引当金	183,400	26,617
その他	328,690	305,041
流動負債合計	922,626	851,590
固定負債		
長期借入金	3,693	2,979
社債	500,000	500,000
資産除去債務	19,829	19,901
その他	5,200	7,854
固定負債合計	528,722	530,735
負債合計	1,451,349	1,382,325
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	1,489,079	1,491,675
利益剰余金	172,313	258,505
自己株式	434,335	434,362
株主資本合計	2,227,057	2,315,817
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,884	16,898
為替換算調整勘定	2,829	10,122
その他の包括利益累計額合計	13,713	6,775
純資産合計	2,240,771	2,322,593
負債純資産合計	3,692,121	3,704,919

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 7 月 1 日 至 2021年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 7 月 1 日 至 2022年12月31日)
売上高	2,619,379	3,419,709
売上原価	1,913,490	2,578,687
売上総利益	705,888	841,021
販売費及び一般管理費	657,878	655,849
営業利益	48,010	185,171
営業外収益		
受取利息	552	510
助成金収入	7,926	1,114
保険金収入	13,174	-
貸倒引当金戻入額	-	8,317
その他	752	3,863
営業外収益合計	22,406	13,806
営業外費用		
支払利息	1,023	1,009
為替差損	554	-
支払手数料	894	891
社債発行費償却	553	553
その他	600	100
営業外費用合計	3,626	2,555
経常利益	66,789	196,422
税金等調整前四半期純利益	66,789	196,422
法人税等	39,901	74,800
四半期純利益	26,888	121,622
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,888	121,622

【四半期連結包括利益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 7 月 1 日 至 2021年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 7 月 1 日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	26,888	121,622
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,083	6,014
為替換算調整勘定	641	12,952
その他の包括利益合計	1,441	6,937
四半期包括利益	28,330	114,684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	28,330	114,684
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 7 月 1 日 至 2021年12月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 7 月 1 日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	66,789	196,422
減価償却費	10,379	5,767
株式報酬費用	865	2,595
貸倒引当金の増減額 (は減少)	4,617	9,881
賞与引当金の増減額 (は減少)	1,255	8,213
製品保証引当金の増減額 (は減少)	80,000	6,600
受注損失引当金の増減額 (は減少)	100	156,782
受取利息及び受取配当金	552	884
助成金収入	7,926	1,114
保険金収入	13,174	-
支払利息	1,023	1,009
為替差損益 (は益)	0	0
売上債権及び契約資産の増減額 (は増加)	195,467	18,567
棚卸資産の増減額 (は増加)	7,685	6,269
仕入債務の増減額 (は減少)	69,165	861
その他	65,406	36,811
小計	69,834	40,834
利息及び配当金の受取額	69	401
利息の支払額	1,017	999
法人税等の還付額	83,488	114,457
法人税等の支払額	121,667	1,751
保険金の受取額	13,174	-
助成金の受取額	4,675	1,114
営業活動によるキャッシュ・フロー	91,110	154,057
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	-	500,000
有形固定資産の取得による支出	2,422	576
無形固定資産の取得による支出	2,355	-
投資有価証券の取得による支出	8,231	6,825
差入保証金の回収による収入	75	7,535
差入保証金の差入による支出	-	35
その他	3,998	4,153
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,935	495,747
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	714	714
ファイナンス・リース債務の返済による支出	341	287
自己株式の取得による支出	-	27
自己株式の処分による収入	3,710	-
配当金の支払額	34,881	35,189
その他	404	402
財務活動によるキャッシュ・フロー	32,631	36,621
現金及び現金同等物に係る換算差額	865	5,643
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	131,811	383,954
現金及び現金同等物の期首残高	1,915,570	1,981,852
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,783,758	1,597,897

【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。) を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

当第2四半期連結累計期間において、新たな追加情報の発生及び前事業年度の有価証券報告書に記載した情報等についての重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約、コミットメントライン契約及び財務制限条項

当社は、資金調達枠の確保を目的とし、取引銀行3行と当座貸越契約を、取引銀行2行とバイラテラル方式によるコミットメントライン契約をそれぞれ締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメント	2,300,000千円	2,300,000千円
契約の総額		
借入実行残高	-	-
差引額	2,300,000	2,300,000

上記のコミットメントライン契約には、次の財務制限条項が付されております(契約ごとに条項は異なりますが、主なものを記載しております)。

- ・決算期(第2四半期を含まない)の末日における連結貸借対照表における純資産の部の金額を、前年同期比75%以上に維持すること。
- ・決算期(第2四半期を含まない)における連結損益計算書における営業損益及び経常損益を2期連続で損失としないようにすること。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
給料及び手当	250,784千円	243,234千円
賞与引当金繰入額	24,104	27,078
貸倒引当金繰入額	4,617	-

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
現金及び預金	1,783,758千円	1,597,897千円
現金及び現金同等物	1,783,758	1,597,897

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年9月28日 定時株主総会	普通株式	35,255	5	2021年6月30日	2021年9月29日	資本剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2021年9月28日開催の第30回定時株主総会の決議に基づき、2021年9月29日付で資本金を823,260千円減少し、その他資本剰余金に振替えた後、同日付でその他資本剰余金を935,684千円減少し、繰越利益剰余金に振替え、欠損填補を行っております。

また、2021年10月18日開催の取締役会決議に基づき譲渡制限付株式報酬として自己株式25,000株、及び新株予約権の行使により自己株式10,000株を処分いたしました。これにより、資本剰余金が28,550千円、自己株式が35,445千円減少いたしました。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,000,000千円、資本剰余金が1,486,483千円、利益剰余金が368,007千円、自己株式が434,335千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年9月28日 定時株主総会	普通株式	35,430	5	2022年6月30日	2022年9月29日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ICTソリューション	農水産物輸出ソリューション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,425,458	193,920	2,619,379	-	2,619,379
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	2,425,458	193,920	2,619,379	-	2,619,379
セグメント利益又は損失 ()	361,431	29,690	331,740	283,730	48,010

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 283,730千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	ICTソリューション	農水産物輸出ソリューション	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,214,300	205,408	3,419,709	-	3,419,709
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	3,214,300	205,408	3,419,709	-	3,419,709
セグメント利益又は損失 ()	512,345	17,171	495,173	310,001	185,171

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 310,001千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)に係る費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ICTソリューション	農水産物輸出 ソリューション	
一時点で移転される財又は サービス	56,713	193,920	250,634
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	2,368,744	-	2,368,744
顧客との契約から生じる収益	2,425,458	193,920	2,619,379
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	2,425,458	193,920	2,619,379

当第2四半期連結累計期間(自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ICTソリューション	農水産物輸出 ソリューション	
一時点で移転される財又は サービス	73,102	197,240	270,343
一定の期間にわたり移転さ れる財又はサービス	3,141,198	8,167	3,149,366
顧客との契約から生じる収益	3,214,300	205,408	3,419,709
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	3,214,300	205,408	3,419,709

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	3円81銭	17円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	26,888	121,622
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	26,888	121,622
普通株式の期中平均株式数(株)	7,061,179	7,086,120
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	3円81銭	-
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	2,598	-
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月13日

テックファームホールディングス株式会社

取締役会 御中

海南監査法人

東京都渋谷区

指 定 社 員 公認会計士 仁戸田 学
業 務 執 行 社 員指 定 社 員 公認会計士 溝口 俊一
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているテックファームホールディングス株式会社の2022年7月1日から2023年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(2022年7月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、テックファームホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

その他の事項

会社の2022年6月30日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2022年2月14日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2022年9月29日付けで無限定適正意見を表明している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。